全国水平社創立宣言　（旧字体、旧仮名遣いを一部変えています。）

全國に散在する吾が特殊部落民(注1)よ團結せよ。

長い間虐められて來た兄弟(注2)よ、過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によってなされた吾等の爲めの運動が、何等の有難い効果を齎らさなかった事實は、夫等のすべてが吾々によって、又他の人々によって毎に人間を冒涜されてゐた罰であったのだ。そしてこれ等の人間を勦るかの如き運動は、かえって多くの兄弟(注2)を堕落させた事を想えば、此際吾等の中より人間を尊敬する事によって自ら解放せんとする者の集團運動を起せるは、寧ろ必然である。

兄弟(注2)よ、吾々の祖先は自由、平等の渇仰者であり、實行者であった。陋劣なる階級政策の犠牲者であり男らしき(注2)産業的殉教者であったのだ。ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥ぎ取られ、ケモノの心臓を裂く代價として、暖い人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪われの夜の惡夢のうちにも、なお誇り得る人間の血は、涸れずにあった。そうだ、そして吾々は、この血を享けて人間が神にかわろうとする時代におうたのだ(注3)。犠牲者がその烙印を投げ返す時が來たのだ。殉教者が、その荊冠を祝福される時が來たのだ。

吾々がエタ(注4)である事を誇り得る時が來たのだ。

吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行爲によって、祖先を辱しめ、人間を冒涜してはならぬ。そうして人の世の冷たさが、何んなに冷たいか、人間を勦る事が何んであるかをよく知ってゐる吾々は、心から人生の熱と光を願求禮讃するものである。

水平社は、かくして生れた。

人の世に熱あれ、人間に光あれ。

1922年3月3日　全国水平社創立大会

※「水平社宣言」についての注

注1　特殊部落民という言葉は被差別部落に対する歴史的社会的差別語です。水平社の人々はこれをプラスの言葉とすべく、あえて用いたと考えられます。

注2　性差別についての問題意識が希薄であったための表現であると思われます。

注3　これについては諸説がありますが、部落差別による蔑視をはね返す決意として受けとめたいと思います。

注4　「エタ」という言葉も被差別部落に対する歴史的、社会的差別語です「特殊部落民」と同様にプラスの言葉とすべく、あえて用いたと考えられます。